

Course number		U-LAS04 10006 LJ46					
Course title (and course title in English)		心理学II Psychology II		Instructor's name, job title, and department of affiliation		Graduate School of Human and Environmental Studies Professor, OOKURA TOKUSHI	
Group		Humanities and Social Sciences		Field(Classification)		Pedagogy, Psychology and Sociology(Foundations)	
Language of instruction		Japanese		Old group		Group A	
Number of weekly time blocks		1		Class style		Lecture (Face-to-face course)	
Days and periods		Mon.2		Target year		All students	
				Eligible students		For all majors	
[Overview and purpose of the course]							
心理学の成り立ちと、人の心の基本的な仕組みおよび働きについて、発達心理学や法心理学の観点から論じる。具体的には、「自分とは何か」という問いを導きの糸として、前半では青年期のアイデンティティ問題を、後半では主体性が危機に瀕する事例や刑事司法における供述分析の事例などを扱う。							
[Course objectives]							
他者との関係性の中で「自己」「記憶」「事実」ができあがってくる様相を理解し、自分自身の成り立ちについて具体的に把握することができる。							
[Course schedule and contents]							
1．青年期における自己の揺らぎ（第1～4回） 2．アイデンティティ拡散はどう収束するか（第5～8回） 3．スタンフォード監獄実験（第9～10回） 4．甲山事件と生み出された物語（第11～14回）							
[Course requirements]							
None							
[Evaluation methods and policy]							
レポートと授業中の小課題（レポート70%、小課題30%）。他者との関係性の中で自分自身が成り立っていることを理解できているかどうかを評価基準とする。							
[Textbooks]							
Not used							
[References, etc.]							
（References, etc.） 大倉得史『拡散 diffusion ～「アイデンティティ」をめぐり、僕達は今～』（ミネルヴァ書房） 大倉得史『「語り合い」のアイデンティティ心理学』（京都大学学術出版会） 浜田寿美男『証言台の子どもたち：「甲山事件」園児供述の構造』（日本評論社） 村山満明・大倉得史（編著）『尼崎事件 支配・服従の心理分析』（現代人文社）							
[Study outside of class (preparation and review)]							
上記の参考書等を読み、「自己」「記憶」「事実」とは何であることを考えておくこと。							
[Other information (office hours, etc.)]							
教室定員を超える受講希望者が出た場合、第1回目の授業で抽選を行うので、必ず出席すること。グループワークを多用するので、積極的に発言すること。							